

雪山ルートファインディング（白馬乗鞍方面）

齊藤整紀

- 平成 27 年 3 月 7 日～9 日
- メンバー 八木（GL）、岩田、齊藤整、八木友人（福谷・小松・井富）6 名

● コースタイム

7 日 （千葉 4:30⇒浦安 5:30）⇒葛西 5:45⇒新宿西口 6:15⇒柵池（昼食）12:30⇒12:45 〆ンション「白いテラス」→13:00～16:00 スノーシュートレッキング：落倉浅間山コース→ペンション（泊）

8 日 ペンション 7:40⇒柵池高原ゴンドラ駅 8:00⇒柵ノ森駅 9:00→13:00（天狗原）→15:00 柵ノ森駅⇒15:30 ゴンドラ駅⇒16:00 白いテラス（泊）

9 日 白いテラス 8:30⇒13:45 中野⇒14:45 葛西⇒（15:00 浦安⇒16:00 千葉）

【はじめに】

1 月の安達太良山に続き八木さんの企画に参加をお願いした。八木さんの友人 3 名、岩田さんを加え 6 人の編成。

3 月 7 日（土）曇り時々小雨

八木さんの友人で千葉市在住の小松さん運転のワゴン車に乗せて頂いた。関越道は、スキー客が新潟方面が混んでいた。藤岡からはスイスイ！時々雨も混じり、車窓の展望はイマイチ。白馬町近くで夜用酒類買出しと昼食を済ませ、ペンション「白いテラス」にチェックイン。

その後、ペンションに予約をお願いし

たスノーシューで落倉高原バックカントリーフィールド内「浅間山かもしかコース」を楽しんだ。時々雨が混じり、雪は重いが、沈む雪でのスノーシューは初体験ながら結構面白い。また私は不覚にも明日用のワカンを忘れてきた為、明日もこれを使うことになり、気合を込めて練習に励んだ。

スノーシューは、急斜面の上り下りには向かないと言われるが、踵持上げバージョンにすると、上りは快適であった。1 日 500 円のレンタル料は安い！

3 月 8 日（日）曇りのち晴れ

前夜の雨は拳がったが、朝からガスが酷い。「午後晴れ」の予報が早まることを期待して出かける。8 時ゴンドラ営業時間前に柵池高原駅に並ぶ。外人を含め、スキーヤーが圧倒的に多い。白馬八方がゲレンデスキーのメッカに対し、ここはバックカントリーで有名とのこと。

中間駅経由で柵ノ森駅下車。5 月以降ならば、更に柵池山荘までリフトが運行されるが、この時期はここから自力で登る。柔らかい雪質の斜面に取り付くため、直ちにワカンを着用、私はスノーシュー。暫くは林道をショートカットできるルートを探しながら上る。見通しはあまり良くないが、風はなく寒さは感じない。

柵池山荘手前の斜面から一気に天狗原へ抜ける方針がリーダーから出された。

途中で先発隊のトレースを避けて、まっ更な雪面直登の指示がでた。八木、斉藤、小松の男性3人が交代でラッセル担当。ここからがルートファインディング開始で、随所に赤布、赤布棒を付けて行く。ここで、幸か不幸か、GPSが使用不能になり真剣味が増す。

高度が2,000mを超え、雪質は更に軽くなるが、その下層はアイスバーンで、赤布棒が刺さりにくい。更に急斜面に差し掛かり、表層雪崩の予兆の切れ目が走る箇所もある。ここで滑落防止のため、リーダーから、ワカン、ストックからアイゼン、ピッケルへの変更指示が出た。降雪が間断なく続き、後続のパーティの姿も確認が難しくなる。

天狗原の高度に達したが、状況は更に悪化し、タイムリミットの午後1時が近づいたため、福谷さんが偵察に走った。結局、「数百m先も真っ白で変化なし」の報告を受け、ここで引き返しを決断。4時間の上りでの終了となった。

下山は、赤布棒や赤布を回収しながら尻セードを楽しみつつ下りる旨、リーダーから告げられた時は、皆の表情が一気に和んだ。暫く、下りは斜度があるうえ、フカフカ雪のお陰で、尻セード、滑落防止訓練も、雪が体に付かず気持ちが良い。

高度が下がる頃には、時々太陽が出て、展望も得られ、ウキウキしてくる。あっという間の2時間の下りでゴンドラ駅に着いた。すっかり中腹のゲレンデは晴れ渡り、スキーヤーの表情は明るい。

今下りてきた方向を振り返ると白銀の世界が展がる。ゴンドラの対面には戸隠

連峰、左手北方には火打、妙高も望める。下山後は白馬連山や五竜岳さえ望める。

3月9日(月)曇りのち雨

今日は、予報も雨で、途中、お土産を買って、帰宅するのみであり、温泉にゆったり浸かり、朝食を楽しんだ。朝夕の食事は充実し、温泉付で8千円はお値打ちです。地ビールも美味。

出発後すぐ、白馬三山から不帰キレット、唐松岳方向のビューポイントが現れ、写真を撮った。次に地場の割安ワインを買って、その後は、車窓からの山並みを楽しんだ。雨雲が迫るものの、結構、眺めは良い。鹿島槍、燕、八ヶ岳、蓼科、金峰山と続き、富士山で締めた。

【最後に】

今回は、白馬乗鞍方面ルートファインディングの目的で、赤布・棒を持って臨んだ。柵池山荘手前斜面から天狗原への尾根で手間取り、乗鞍には到達しなかったが、前日の浅間山スノーシュートレッキングを含め、様々な雪質に、それぞれ対応した装備で訓練できたのは有意義であった。

また八木氏のリーダーシップには感心した。豊富な経験に裏打ちされた指示は高圧的ではないが、はっきり意思が伝わり、反対意見にも的確に対応する。流石である。さらに都岳連の講習を受けたという福谷氏がサポートして、楽しく、安全な山行ができた。小松氏の長時間ドライブにも感謝したい。

目白以外の岳人も含め、充実した山行ができて嬉しい限りである。(了)

九鬼山～馬立～御前～神楽山

齊藤整紀

- 平成 27 年 3 月 15 日(日)曇り時々晴
- メンバー 西正子(CL)、明彦、島崎、齋藤亘、白井、齊藤整紀
- コースタイム 禾生駅 9:00→(杉山新道)→10:40 九鬼山 970m(昼食)11:20→12:40 馬立山 797m→13:20 御前山 730m→13:40 神楽山 674m→14:20 猿橋駅

先週の白馬山行の途中、楯池・天狗原付近で、西正子さんからメールを頂いていたが、前夜に飲み会が入ったため、参加表明が遅れた。

朝、アルコールは残るが、何とか起き出し、予定の 6 時発の電車に乗った。曇りがちなが、雨の心配はなさそうである。

高尾駅で会長と白井さんに合流、富士急線直通の河口湖行に乗った。禾生駅で西ご夫妻と島崎さんが待っていた。富士急は富士山が世界遺産になり観光客が増えたこともあり、2 億円以上投資し、昨日から IC カードが使えるようになったそうである。その為先月の秩父鉄道の長瀨駅の苦い思いはせずに済んだ。

九鬼山塊は、意外にも、正子さん以外は皆、初めてである。まず主峰・九鬼山は、3 回経験のある正子さんは、急なコースを避け、なだらかで登りやすい杉山新道から入った。結局、この径が本日、最も歩き易かったようだ。

山頂手前に富士山の絶景ポイントがあ

り、力強い富嶽を楽しんだ。しかし下りはガシガシで、堪える。途中、穏やかな高台を選んで昼食を摂って、馬立(まだて)山までの長いアップダウンに挑んだ。

札金峠を過ぎて、なだらかな尾根を登りきった所が馬立山のピークである。更に沢井沢ノ頭を過ぎると、大きな岩の尾根を南側に巻いて、切り立った岩の御前山に至る。クライミングも出来そうである。展望抜群の岩峰は 730m 峰とは思われない迫力がある。記念撮影後、風が強いため、早めに降りる。急斜面を凌いで、間もなく最後の神楽山に到着した。

しかし、ここからの下りは霜溶けの滑りも加わり、急勾配で侮れない厳しさがあった。結局、1000m 足らずの 4 峰を辿るハイキングであったが、急勾配のアップダウンの連続で休憩を取りながらの 5 時間のハイキングながら、結構、体を使った。齋藤亘会長は、スキー以外では今回がシーズン初めての山行とか、また島崎さんはスキー三昧であったため歩くのは辛そうであった。ちなみに私は、先週の楯池の雪山よりも今回のハイクの方が足のハリなど厳しいものがあった。

反省会は国分寺のいつもの居酒屋(午後 2 時からやっている)に流れたが、久しぶりに会の主要メンバーが会したこともあり、4 時から 7 時まで 3 時間程盛り上がった。(了)

武尊牧場～上州武尊山（雪山・テント泊）

齊藤整紀

- 平成 27 年 3 月 28 日～29 日
- メンバー 西明彦(CL)、西正子、白井、
齊藤整、4 名【敬称：略】

●コースタイム

28 日 沼田駅 8:40⇒10:30 武尊牧場スキー場⇒リフト頂上 11:00⇒13:35 避難小屋⇒14:00 セビオス岳下テント場(泊)
29 日 テント場 6:15⇒8:30 中ノ岳⇒9:10～20 武尊山(沖武尊)⇒11:00 テント場⇒12:40 ゴンドラ上⇒13:40 スキー場駐車場⇒14:20～15:20 望郷の湯⇒18:30 西武線・南大塚駅

【はじめに】

1 月の安達太良、3 月上旬の柵池で雪山を楽しんだが、山の上での展望に未練があり、こんどこそ！の思いで参加させて頂いた。武尊山は、主峰沖武尊の他、中ノ岳、前武尊、剣ヶ峰山などの 2000m 級のピークを擁し、八方に膨大な尾根を張っているため様々な登山コースがある。今回は武尊牧場スキー場からの比較的標高差が少なく、距離の長いコースである。

3 月 28 日(土) 快晴

関越道の渋滞回避のため、白井さんと私は電車で行き、沼田駅で西ご夫妻の車に拾ってもらった。好天で、車窓の眺めは抜群である。桜はチラホラながら、浅間山や日光連山は見事で、谷川連峰の

南東の白い山塊が目指す武尊山である。

10 時過ぎに武尊牧場スキー場に着き、支度を整え、スキーリフトへ乗り込む。旧式のリフトであるが高度を稼げるのは有難い。リフト頂上からワカンを付けて歩き出す。冬山のテント泊は荷物が多いのは当然であるが、食料系の 2 食分が肩に食い込む。当初、平坦なブナの樹林帯は踏跡もあり、固めの雪で歩き易いが、登りになると、週初めの新雪で足が取られる。ムムムム日頃の不摂生が堪える。

やがて踏跡も消えて、正子さんは随所に赤札を付けていく。雪庇が張り出している左側には迷い込まないように、地図や GPS の確認は怠らない。出発から 2 時間半が過ぎた地点で雪に埋まった避難小屋の一部を発見した。そこから更に 30 分程登った平地を幕营地と決めた。北側には、尾瀬の燧、至仏や上信越の峰々が白く輝く。正に息を呑む美しさである。

重いザックを下し、先ずテント設営にかかる。一仕事を終えた後、ビールで乾杯！風景を楽しみながらワイン等も楽しむ。雲、風が無く、日光方面は白根が近く丸沼スキー場もはっきり見える。皇海から子持山の連山も素晴らしい。日が翳る迄で宴会を楽しみ、夕食はだまご鍋。雪を融かしながらの調理は時間がかかり煮込みが甘かったが、まずまずで、残らず平らげてくれた。テントからの星が綺

麗で、北斗七星などが確認できた。

3月29日(日) 晴れのち曇り

午後から天気が崩れる予報のため早目に片付ける方針で臨む。荷物は軽めにしたが、コメツガ、シラビソ等の樹林帯を抜けるまでは深雪で、私は皆よりも沈み苦戦。セビオス岳を超えて尾根に出て展望が広がる。中ノ岳の切り立った岩峰が圧巻。左側の切れ落ちた雪庇に注意しながら進む。急に雲が出て、不気味な迫力を湛えた断崖に気圧され、「私には登る力はない。下で待っている。」旨申出た。しかし、正子さん「あそこは私らでも登らない。巻き道があるから大丈夫！」と励まされた。そう言われて、明るい気分になる。斜面手前の尾根でワカンからアイゼンに履き替えた。雪が締まって歩き易い。日差しも戻って気分は爽快！

進路の右斜面は、雪の下が鎖場で角度はあるが、ピッペルの3点確保の教えを守ると楽に登れる。中ノ岳の山頂には夢の世界が広がっていた。上から見下ろす雪景色はテン場で見た銀世界とは段違いの輝きを以って広がる。これぞ雪山！以前、未文ヶ岳でも素晴らしい雪景色を体験したが、ここの方が、高さがあり、有名な山に近い分、優る気がする。何とも贅沢な気分。来て良かった！

中ノ岳から沖武尊までは小さなアップダウンがあり、夏場は水場や三ツ池等の池塘やお花畑が楽しめる辺りであるが、今は真っ白で、結構、距離がある。

「9時山頂」のほぼ目標通りに沖武尊に着き、誰も居ない山頂風景を楽しんだ。

下山は、深雪も気にならず、どんどん降りられ、順調そのものであった。テン場には11時前に到着、荷物をまとめてスキー場へと急いだ。登りで正子さんが付けた赤布を回収しながら戻ったが、尾根の中心を見事に捉えたルート取りであった。お陰で雨にも遭わずに、無事に帰ることが出来た。なおスキー場では下りのリフトに乗ることが出来、楽ができた。

沼田の「望郷の湯」に浸かり、今来た武尊の雄姿を振り返った。帰りの高速道は自然渋滞はあったものの、6時半頃西武線の駅まで送って頂いた。

【最後に】

中ノ岳は正面の絶壁に登るものと勘違いし、目白を代表する3人に同行を願ったことを後悔する場面もあったが、結果としては、待望の山上の銀世界を堪能出来、3人の仲間に感謝したい。また反省や教えられることも多かった。

まず久しぶりの雪山テント泊で荷物が重かったこともあるが、日頃の不摂生が祟り、体重過多で、バテて遅れて迷惑を掛けた。更に3点確保のピッケルワークも自己流を矯正して頂き感謝している。加えて支度の迅速さ、リーダーの指示の明確さ等、当会の一流に触れ、日頃の甘さを再認識した。食事係としてゴミを持ち帰ったが、非常に量が少ないことも感心した。やはり厳しい山行を繰り返した中で身につけられた「山屋」が成せる技というべきか。自らの山行の甘さを再認識し、厳しさの持つ爽やかさを教えられた山行であった。(了)